

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470800929	事業の開始年月日	平成16年4月16日
		指定年月日	平成22年9月1日
法人名	有限会社 ビリーブ		
事業所名	リングリング		
所在地	(〒236-0051)		
	横浜市金沢区富岡東6-4-29		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員 定員計 ユニット数	名 名 5名 1 ユニット
自己評価作成日	平成26年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>5名と少人数のグループホームなので、個々に合った対応をすることが出来る</p> <p>天気の良い日は近所の公園への散歩や、行事で年2回は花見と遠足、全員で外出をして季節を楽しんでもらっている。</p> <p>居室は畳の部屋が多く、まるで自宅にいるように過ごすことができる。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月30日	評価機関 評価決定日	平成27年6月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は京浜急行、京急富岡駅から徒歩で2分ほどのところにある。駅から近距離にもかかわらず緑が多く、古い木造住宅が小道に点在している雑木林に囲まれた一角にある。事業所は大きな2階建ての木造住宅を改修した、定員5名、1ユニットのこじんまりしたグループホームである。 敷地は広く、裏庭には利用者が手入れをしている花壇の他、梅、桜、桃、夏みかん、ブルーベリーなど季節ごとに実の生る木が植えられ、四季の移ろいが見て取れる。また、西側の畑は本格的なもので、ボランティアが手入れをしており、収穫された季節の野菜が食卓に上る。</p> <p><b>【地域と共に生きる】</b> 法人の理念にもある「人間関係の構築」を実践し、利用者のみならず、地域の住民とも関係を築いている。散歩であいさつをしているうちに顔馴染みになり、差し入れをもらうなど地域の方に支えられ活動している。運営推進会議や町内会でも事業所の活動を説明している。事業所の防災訓練にも地域住民が多数参加しており、地域に支えられ活動を続けている。 行政とも相談しながら連携しており、緊急性のある方を優先的に受け入れている。</p> <p><b>【7利用者と楽しむ食事】</b> 食材は職員が調達し、安くておいしい食事作りを心掛けている。大きな厨房で職員が毎回食事を手作りし、利用者も時に手伝う。 ネギやホウレンソウ、サツマイモ、フキ、ゴーヤなど多量の作物を畑で育て、食卓に彩りを与えている。 食事は季節感を大切に、彩りを考えて提供しており、職員と利用者は同じテーブルで会話しながら食事をしている。毎日の食事を写真に撮り、アルバムに残している。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	リングリング
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を全員に説明し、納得してもらい職員全員で取り組んでいる。	理念は平成16年の開設時に、職員が皆で考えて作成し、玄関に掲示している。毎月の会議には必ず理念に基づいた話をしている。日々のケアでは、「人間関係の構築」に重きを置いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の防災訓練の参加、町内の掃除の参加、お祭り等の参加している。	町内会に加入し、町内の掃除や防災訓練に職員が参加している。町内の草むしりや秋祭りなどには利用者と共に参加している。保育園との交流会や、地域ケアプラザの催しなどにも利用者と共に出かけている。手作りマントのため、近隣の方から古いタオルをもらうなど、様々な協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時は、スタッフ・利用者共にこちらの方から挨拶するように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し、ホームの行事や近況報告を行い、第3者との意見交換の場としてサービスの向上に活かしている。	2か月ごと、町内会長代理、民生委員、地域包括支援センター職員、ケースワーカーなどの出席を得て開催している。事業報告や支援について話し合っている。参加者から庭にある手すりのぐらつきを指摘されたため、今年修繕をした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	内部での判断に困った時には運営推進会議で相談している。生活保護の人のことは随時保護課の担当者と連絡を取っている。	横浜市主催の研修会に参加している。入居者のほとんどが生活保護を受給しており、金沢区の生活保護課のケースワーカーと電話で連携をとっている。地域包括支援センターには更新申請に出向くほか、様々な相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止の基本法令遵守マニュアルを職員全員が把握し、研修・勉強会での内容を理解のもとに生活支援を実践している。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作り、業務日誌と同じファイルに綴じたり玄関や事業所に掲示したりして、職員に周知している。事例検討などで、認知症の利用者が理解しやすい声掛けの方法などを学んでいる。玄関や庭木戸には鍵をかけず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5項目の虐待の事例などを業務日誌・掲示場所に掲示し職員全員が共通認識のもと絶対に虐待行為を起こすことの無い様に会議での勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば関係者と話し合い区役所の担当や包括に相談したり、意見を求めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時に十分な説明をして納得・理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	独居の方が多く、また家族との縁があまりない方もいて、家族会は設置していない。家族来所時には意見・要望を聞き、利用者の状況変化についてはその都度電話又は文章で報告している。	家族にはケアプラン更新時や来所時に意見を聞いたり、電話で話をしている。ケースワーカーには常に電話等で連絡を取っている。「カラオケがしたい」「編み物をしたい」という利用者からの要望に対して、実現に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全員参加による定例会議 毎日の連絡ノート 緊急性のある場合は緊急会議を行っている。	職員の提案は「連絡ノート」や口頭で聞き取っている。緊急性のある場合は「緊急会議」を開き、話し合っている。担当係の決定や物品の置場などは職員が自主的に決めている。トイレの汚れ対策に、職員が自ら考えてマットを手作りした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話、会議での職員の希望等を聞き、希望に添えるように努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合ったレベルの研修を希望により受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他ホームの施設長に声をかけて会議に参加できる場合は参加してもらい意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントで、ご本人の希望を聞き取り、信頼関係を築くことにより不安な気持ちを汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望等をよく聞き出来る限り希望に応えるように努めている。できないことは説明をして納得していただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望に応えるため最良の必要とされる支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人お一人お一人の希望・思いを考慮した対応と共同生活の一員としての生活を共にできるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心していただくことを先ず心掛け、コミュニケーションを良くし、ご本人の生活の場を作っている。又、月に1度は近況報告と写真を送付し関係を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各利用者が、得意なことや趣味が継続してできるように個別支援に組み込んでいる。	毎日の散歩で馴染みになった方から挨拶を受けたり、柿や花をもらうことが多い。床屋や理容店とも顔馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの体力によって散歩コースを変えたり、散歩中も皆で会話するようにしている。室内ではゲーム等で利用者さんが楽しんで笑顔を見せてくれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話での対応となるが、相談やアドバイスを行うよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月モニタリングし、ご本人の意向の把握に努めている。日々の会話の中で本人の思いや希望を引出すよう努めている。	独居の方が多く、入居時の生活歴の聞き取りなどはあまりできていないが、入居後の会話の中から意向や希望の把握に努めている。本人本位で検討し、本人の言葉を大切にして、カンファレンスを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、ご家族の聞き取りを参考に、入居後の生活状況より本人を知る努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の状況及び様子を観察 又、コミュニケーション等から状態を把握して申し送りをし、個々に合った過ごし方をしてもらえる様に作成している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員制で、毎月カンファレンスを行っている。 職員全員で本人本位の支援を検討し、介護計画を作成している。	職員は気づいたことや意見をシートに記載し、ケアマネジャーが集約し毎月のカンファレンスの材料としている。医療情報は「居宅療養管理指導書」から必要事項を抜粋している。毎月ケアマネジャーと担当職員がモニタリングを行い、計画の内容を評価し、3か月おきに計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子はケース記録に記入している。 細かな様子は職員間の申し送り、又は連絡帳に記入している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに対応できるよう職員全員で話し合いで取り組み 又、ご家族と相談・話し合い等をして取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアプラザの利用・町内会の催し物への参加・保育園の見学（交流） 火災避難訓練の支援を地域から受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	湘寿クリニックの往診を主として先生の指示のもと疾患部位の専門医への受診や、ご家族の希望する医療機関の受診も行っている。	ほとんどの方が事業所の協力医療機関である往診医をかかりつけ医としている。月2回の精神科、内科の往診の際に「居宅療養管理指導書」をもらっている。専門医への受診は職員が付き添っている。協力医は24時間対応可能である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	湘寿クリニックの主治医に詳細な情報を伝え適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	湘寿クリニックの主治医との連携を密にし、その都度支持を受けるようにして医療機関との連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りは難しいことを入居相談時に説明し、ご家族に納得してもらっている。入居時に延命の意向確認の書類をもらっている。	重要事項説明書に「看取りは行わない」と明記されており、事業所では看取りを行う意向はないことを入居時に説明している。入居時に「緊急時の意向確認書」で治療を希望するかしないかを確認し、同意書を受け取っている。	看取りを行わない方針ですので、退去基準等を明確にして利用者に説明することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手順マニュアルを作り職員が即時対応できるようにし、連絡網も作成、事態に備え、定期的な訓練も実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。町内会の消防訓練にも職員が参加	6月には利用者も参加して避難訓練を行った。10月は町内会主催の防災訓練に職員が参加した。11月には、民生委員を通じて訓練への参加を地域の方に呼びかけ、9名の住民の参加を得た。事業所内にAEDを設置し、職員に研修を行っている。敷地内に井戸水があり、緊急時には使用できる。玄関わきの物置には非常用の毛布やリュック、水や食料品などが備蓄されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんと呼ぶ時基本は、姓を「さん」付けて呼び、時には本人の望む呼び方で呼び個人の尊敬を大切にしよう努めている。居室に入る時・介助する時必ず声掛け許可を取っている。	職員は利用者と関係性を築くことを重視している。一人ひとりを理解し、その人に合った対応を心掛けている。居室に入室する時や、介助する時は必ず声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いや希望を大切にしていく中で、日々のコミュニケーションをしっかりと取り組んで、一人一人のお声に働きかけることを務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや希望をコミュニケーションを通じて把握し一人一人のペースに合う散歩やレクリエーションを考え、個々の希望に沿って対応できるように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを重視し着たり脱いだりしやすく、体に楽なものを選び気候に合った服装を支援するように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者職員と一緒に食事をし、一人一人の好みを取り入れ食べ易い様にしたり、誕生日・行事などの季節感を取り入れるよう努めている。	食事は手作りで、職員は利用者と同じテーブルにつき会話しながら同じ食事を取っている。メニューは、季節を感じられることを心掛けている。毎日写真を撮り、保存している。噛む楽しみを重視し、歯ごたえのある食材をあえて出すこともある。畑で採れた野菜を食卓に出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談し、一人一人の状態や力に合わせ食べる量、栄養バランスを考えた食事を提供している。また、毎回摂取量をチェックし不足しないようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実行し、主治医の先生より指示をいただいた時は即実行し、声掛けと見守り等にて口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間は声掛けやポータブルトイレ設置 トイレに間に合わず失禁・便付着の多い方はリハビリパンツを使用している。	トイレは1階、2階に1か所ずつ、計2つある。ほとんどの方は日中尿意があり、パットを自分で交換している。夜間は声掛けしている。トイレの汚れ対策として、タオルをU字型に作り便器の周りに敷くなどの工夫をしている。職員はマットなど掃除をこまめに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者さん一人一人の排泄記録と、一人一人の飲食・運動・生活活動の把握と注意に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日・時間帯を決めている。入浴前にバイタルチェックを行い、体調を把握し、個人の状態希望に応じた入浴を支援している。	入浴は1日おきに曜日を決め対応している。浴槽が深いため、バスボードを用意している。ゆずや菖蒲などの行事湯や、みかんの皮、入浴剤など楽しめる工夫をしている。医師の指示でシャワー浴のみの方もいる。入りたがらない利用者には、誘い方を変えて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や生活習慣を考慮し就寝時の寝具等は常に清潔に保つように心掛けている。また各居室に応じた温度調節を重視し、夜間のみポータブルトイレを利用するなども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は必ず、受診ファイル・連絡帳等で、薬の内容を把握し情報を共有している。又、様子・観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の能力に応じ、洗濯物たたみ・食器ふきなどの作業、自室の掃除などは日常生活での役割を意識いただき、散歩・体操などの日課や行事などで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は利用者さんの体調・脚力に合わせて散歩コースを決めている。買物や散髪・短距離や行事で長距離の外出も行っている	1日の業務の流れに散歩を組み込んでおり、天気の良い日は日課として散歩に出かけている。利用者に応じて散歩のコースを変えている。年に4回外出行事を行っており、4月には花見に車で出かけている。畑や庭に出て日光浴することもできる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームが行っているが、欲しいものがある時は、職員と一緒に買い物に行きご本人が満足できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により手紙や電話等で、ご家族と連絡を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除により、清潔保持を保つよう努めており、季節感を大事に、その季節に見合ったものを飾り喜んで頂ける様取り組んでいる。	季節を大切にしており、玄関に桜を活けている。リビングは南向きで、日当たりが良い。庭には梅や桜、桃、夏みかん、ブルーベリーなど身のなる木が植えられ、季節を大切にしている。廊下の天井照明は古民家らしく、紙のフードの照明を使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを共有スペースとし、交流の場として使用、利用者さん個々の席、フリーの席も確保されていて安心して過ごせる様に不定期に席替えもしているまた、各居室で一人の時間を過ごすこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の持参した家具や衣類・小物等は、そのまま居室に置いている。 塗り絵や誕生カード等を壁に貼って、その人らしい居室になるように工夫している	居室は2階に2室、1階に3室あり、居室は広く、天井が高い。畳の部屋にベッドやテーブルを置いている方もいる。家具などは近隣の住民から頂いたものが多く、利用者が思い思いに工夫し、使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバスボード等介護用具を設置し、一人一人の能力に合わせ声掛け見守りを支援している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名

リングリング

作成日

平成27年6月28日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29	重度化に伴う対応について	法人の指針をはっきりと文書化する	基本看取りはしない旨を明記しているが、重度になった場合はどの様するか明記し説明する	今年度中
2	13	他の施設への入所申し込みについて	介護度3以上の利用者に対し入居とともに特養への申し込みをする	入居時に家族に説明し納得の上申し込みをしていただく	今年度中
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。